

# 都内中小企業の事業資金に関する調査

(平成 29 年 11 月調査)

## 《 概要 》

- 主な取引金融機関は、「都市銀行」が56.3%で最も高く、次いで「信用金庫」が31.2%となっており、この2つで約9割を占める。
- 主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、40.6と1.6ポイント上昇し、引き続き「緩やか」が「厳しい」を上回る状況が続いている。
- 主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、「変化なし」が74.8%と7割以上を占めて最も高く、安定した状態が続いている。
- 最近の借入金利は、「1%台」が43.3%と最も高く、次いで「2%台」が25.5%、「1%未満」が23.7%となった。「1%未満」、「1%台」、「2%台」を合わせると引き続き9割を超え、金利水準は低めに推移している。
- 今後3か月間の資金需要をDI値（「増加する」－「減少する」）でみると、17.4と2.3ポイント上昇した。前々回、前回に引き続き増加しており、資金需要の増加傾向は強まっている。
- 金融機関からの借入金総額の状態は、前年同時期と比べて「減少した」が42.0%、「変化なし」が39.9%でともに約4割を占めた。今後1年内に現在額を上回ることがあるかについては、「ない」が53.5%で過半数を占めた。

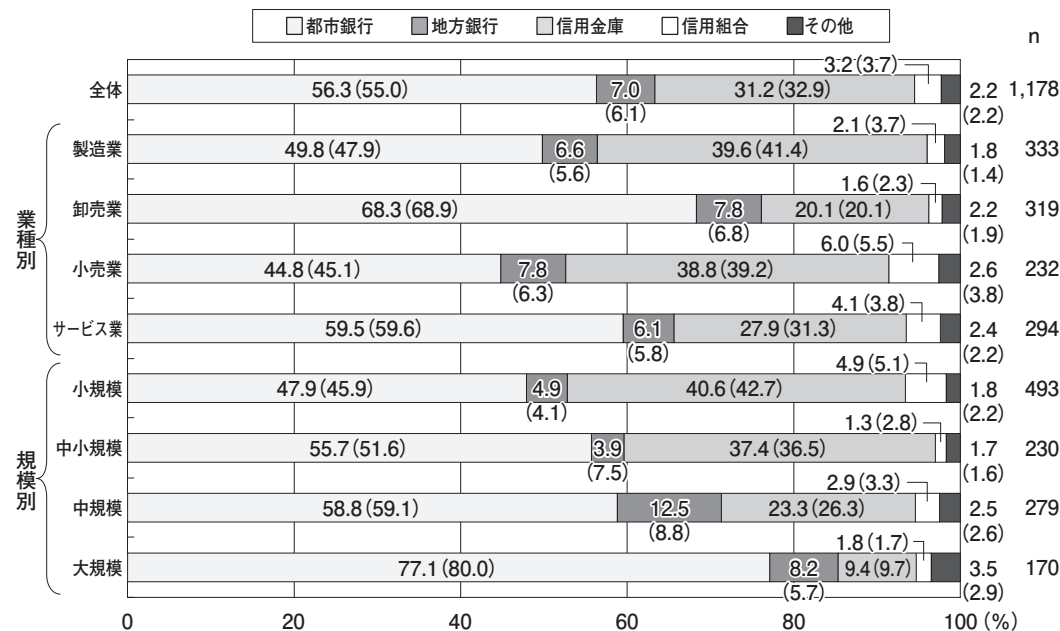
## 1. 主な取引金融機関

主な取引金融機関は、全体では「都市銀行」が56.3%（前回55.0%）で最も高く、次いで「信用金庫」が31.2%（同32.9%）となっており、この2つで約9割を占める。このほか、「地方銀行」が7.0%（同6.1%）、「信用組合」が3.2%（同3.7%）となった。

業種別にみると、全業種で「都市銀行」が最も高く、特に卸売業では68.3%と7割近くに達している。一方、製造業と小売業では、第2位の「信用金庫」が約4割を占め、「都市銀行」との差は小さい。

規模別にみると、小規模では「都市銀行」が47.9%、「信用金庫」が40.6%となっている。規模が大きくなるほど「都市銀行」が高く、「信用金庫」が低くなっており、大規模では「都市銀行」が77.1%と8割程度を占めている。

図表 1 主な取引金融機関



注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。( )内は前回値(平成29年5月調査)。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

## 2. 借入や返済に対する姿勢

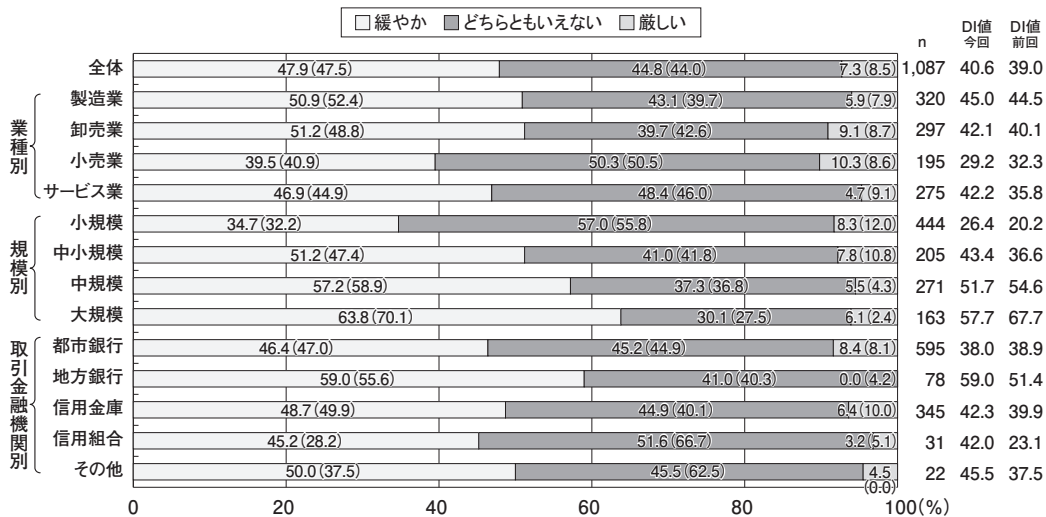
主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、全体では40.6（前回39.0）と1.6ポイント上昇し、引き続き「緩やか」が「厳しい」を上回る状況が続いている。

業種別にみると、卸売業42.1（同40.1）は2.0ポイント、サービス業42.2（同35.8）は6.4ポイントとともに上昇した。一方、小売業29.2（同32.3）のみ3.1ポイント低下した。製造業45.0（同44.5）はほぼ横ばいとなった。

規模別にみると、小規模26.4（同20.2）は6.2ポイント、中小規模43.4（同36.6）は6.8ポイントとともに上昇した。一方、大規模57.7（同67.7）は10.0ポイントと大幅に低下、中規模51.7（同54.6）も2.9ポイントとやや低下した。

取引金融機関別にみると、信用組合42.0（同23.1）が18.9ポイントと大幅に上昇したほか、地方銀行59.0（同51.4）も7.6ポイント上昇し、緩和傾向となった。一方、都市銀行38.0（同38.9）のみ0.9ポイントとわずかに低下した。

図表2 取引金融機関の借入や返済に対する姿勢



注) 無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。( )内は前回値(平成29年5月調査)。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

### 3. 主な取引金融機関からの借入金利

#### (1) 金利傾向

主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、全体では「変化なし」が74.8%(前回70.4%)と7割以上を占めて最も高く、安定した状態が続いている。また、「低下」が10.7%(同13.7%)で、「上昇」の4.8%(同2.8%)を上回っている。

図表3 金利傾向



注) 無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。( )内は前回値(平成29年5月調査)。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

#### (2) 金利水準

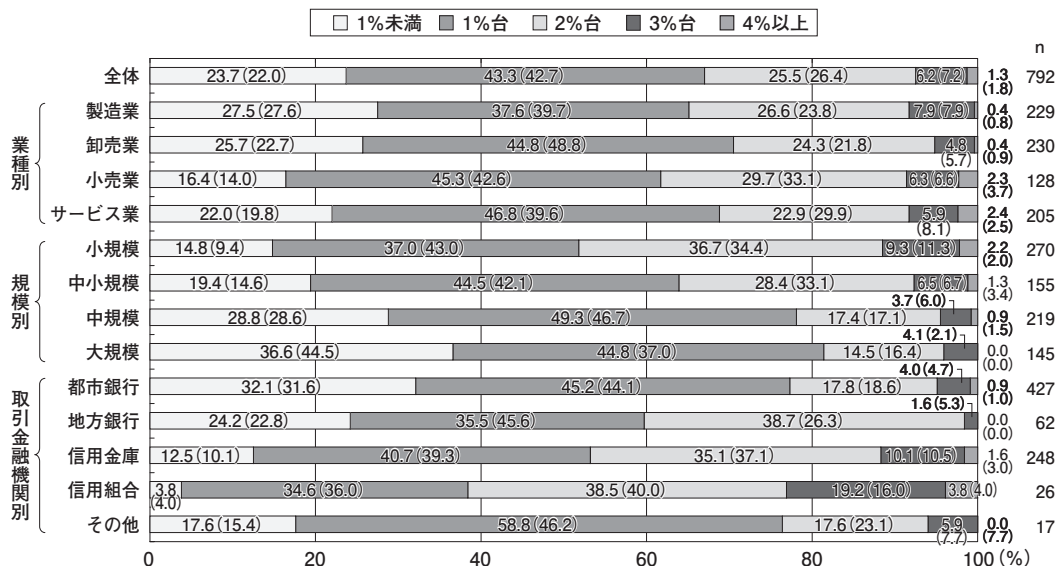
最近の借入金利は「1%台」が43.3%(前回42.7%)と最も高く、次いで「2%台」が25.5%(同26.4%)、「1%未満」が23.7%(同22.0%)となった。「1%未満」、「1%台」、「2%台」をあわせると引き続き9割を超え、金利水準は低めに推移している。

業種別にみると、全業種で「2%未満」が6割を超えている。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「1%未満」が高くなっており、大規模では「2%未満」が8割を超えている。

取引金融機関別にみると、都市銀行では「1%台」が45.2%で最も高く、「1%未満」とあわせると7割を超えている。信用金庫では「1%台」が40.7%で最も高くなった。

図表4 金利水準



注) 無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。( )内は前回値(平成29年5月調査)。3年超5年以内、保証協会の保証付以外。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

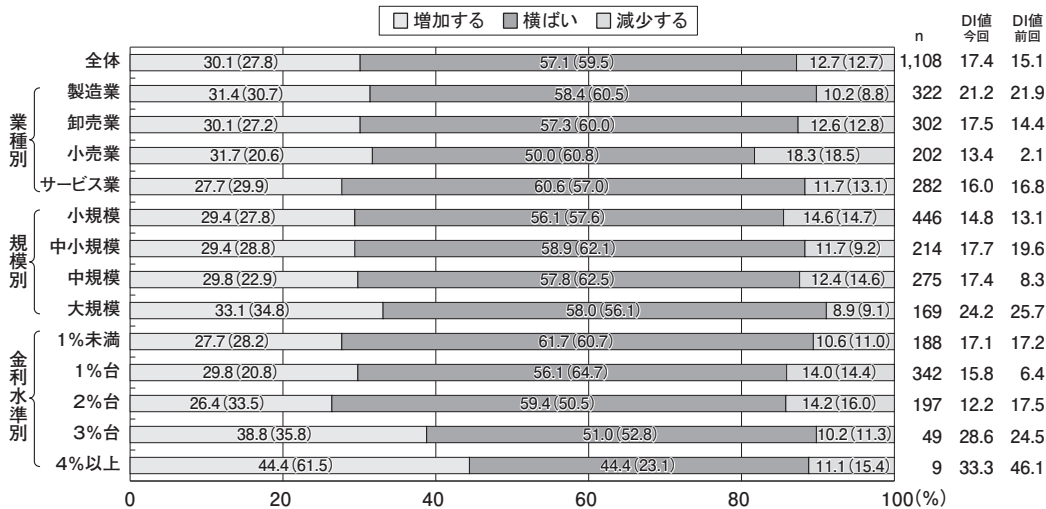
#### 4. 今後3か月間の資金需要

今後3か月間の資金需要をDI値(「増加する」-「減少する」)で見ると、全体では17.4(前回15.1)と2.3ポイント上昇した。前々回、前回に引き続き増加しており、資金需要の増加傾向は強まっている。

業種別にみると、小売業13.4(同2.1)は11.3ポイントと大きく上昇したほか、卸売業17.5(同14.4)は3.1ポイントとやや上昇した。

規模別にみると、中規模17.4(同8.3)が9.1ポイントと大きく上昇した。

図表5 資金需要（今後3か月間）

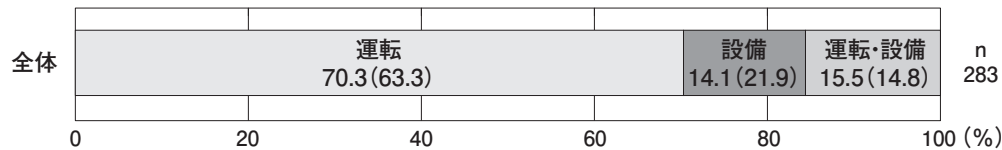


注) 無回答を除き集計。規模・金利水準不明を除く。( )内は前回値(平成29年5月調査)。  
四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

(1) 資金使途

資金需要増加分の資金使途をみると、「運転」が70.3%（前回63.3%）と最も高く、次いで「運転・設備」が15.5%（同14.8%）、「設備」が14.1%（同21.9%）となった。前回と比べ「運転」が7.0ポイント増加し、「設備」が7.8ポイント減少した。

図表6 資金使途

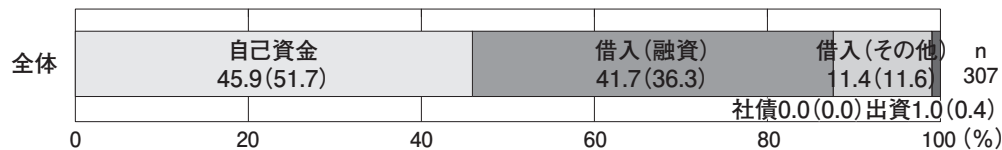


注) 資金需要が増加する企業につき、無回答を除き集計。( )内は前回値(平成29年5月調査)。  
四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

(2) 調達手段

資金需要増加分の調達手段をみると、「自己資金」が45.9%（前回51.7%）と最も高く、次いで「借入（融資）」が41.7%（同36.3%）となった。前回と比べ「自己資金」が5.8ポイント減少し、「借入（融資）」が5.4ポイント増加した。

図表7 調達手段



注) 資金需要が増加する企業につき、無回答を除き集計。( )内は前回値(平成29年5月調査)。  
四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

5. 金融機関からの借入金総額の状況

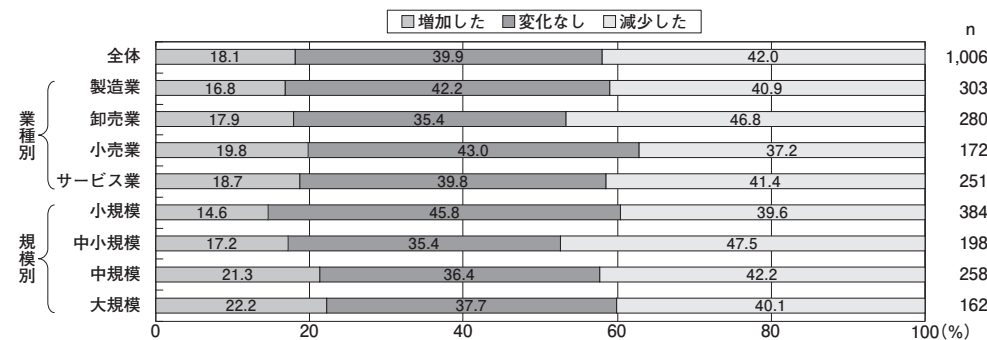
(1) 借入金総額（前年同時期比）

前年同時期と比べた現在の金融機関からの借入金総額の状況は、全体では「減少した」が42.0%、「変化なし」が39.9%とともに約4割を占めた。借入金総額が「増加した」は18.1%と2割未満になっている。

業種別にみると、全ての業種で「増加した」は2割未満となった。一方、「減少した」は卸売業が46.8%と他の業種と比べてやや高くなっている。

規模別にみると、「増加した」は大規模で22.2%、中規模で21.3%と2割を超えている。

図表8 金融機関からの借入金総額（前年同時期比）



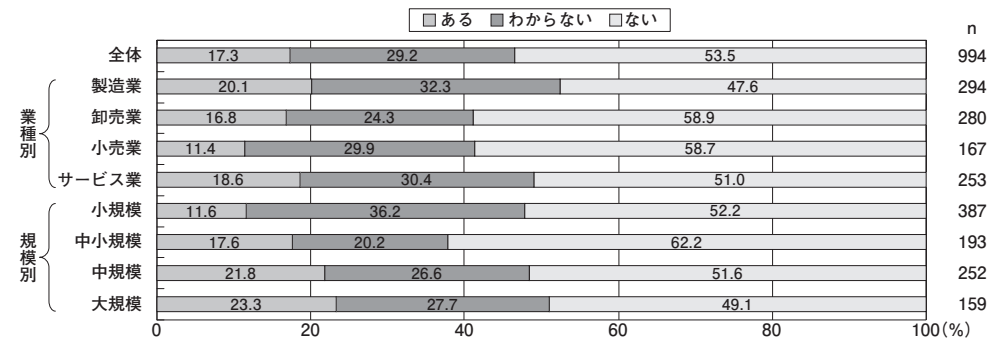
注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

(2) 借入金総額の増加見込み（今後1年内）

今後1年内に金融機関からの借入金総額が現在額を上回ることがあるかについては、「ない」が53.5%で過半数を占めた。「ある」は17.3%となっている。

業種別にみると、製造業を除く全ての業種で「ない」が過半数を超えた。規模別にみると、「ある」が大規模で23.3%、中規模で21.8%と2割を超えている。

図表9 借入金総額の増加見込み（今後1年内）



注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。